

## 【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。**応募用紙・補足資料に個人情報を記載しないようご注意ください。**

### 1 応募者概要

団体名	(ふりがな：かながわけんりつせやにしこうとうがっこう) 神奈川県立瀬谷西高等学校		
代表者の役職・氏名	(ふりがな：こばやしゆきひろ くろさきようすけ) (役職) 校長 (氏名) 小林 幸宏 (役職) 教諭 (氏名) 黒崎 洋介	活動にかかわる児童・生徒・学生数	(令和3年11月現在) 43期生 約300名
ホームページアドレス	<a href="https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seyanishi-h/">https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seyanishi-h/</a>	活動開始年月	昭和55年11月(海軍道路の清掃活動の開始)
環境に関する主な活動内容	環境に関する主な活動内容		※(もし該当がある場合は、SDGsの目標番号を記入してください)
(審査対象となる環境活動・取組を箇条書きで記入。行を適宜追加して下さい)	・海軍道路の美化・清掃活動、花の植栽活動による地域活性化		11・15・17
	・ <sup>くびのま</sup> 鶴沼海岸(藤沢市)でのビーチクリーン		14・17
	・企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み		ほぼ全てが該当
	・校内に残る原生林である「思索の森」の保全・清掃活動		13・15
活動範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 1 学校内 <input checked="" type="checkbox"/> 2 学校外		
活動分野 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 川・海・水 <input checked="" type="checkbox"/> 2 緑・樹林 <input checked="" type="checkbox"/> 3 農業 <input checked="" type="checkbox"/> 4 3R <input checked="" type="checkbox"/> 5 環境教育・学習                      6 生物多様性 <input checked="" type="checkbox"/> 7 地球温暖化対策                      8 その他 (                      )		
活動の目的やねらい	<p>神奈川県立瀬谷西高等学校では、創立当初の昭和55年度から通学路である海軍道路の清掃活動に取り組み、平成17年度からはハマロード・サポーターとして清掃と植栽活動を続けてきた。令和4年度をもって再編統合により完校することとなり、最終学年となった現在2学年の43期生は、総合的な探究の時間において年間を通してSDGs(持続可能な開発目標)に関する探究学習に取り組んでいる。ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路の清掃と植栽活動についても、SDGsの学習の一環として位置付け、生徒の発案を受けて、より範囲や規模を拡大した「フラワーロードプロジェクト」として実施するとともに、瀬谷を花で盛り上げる様々な取組みを行っている。これにより、2027年に国際園芸博覧会を控える瀬谷区の将来を担う一員としての自覚と責任、自信を持たせるとともに、花や緑による瀬谷の街の魅力向上や人々の花や緑への関心を高め、ガーデンネックレス横浜や国際園芸博覧会の気運醸成の一助となることを目指している。あわせて、生徒の発案により、43期生全員で鶴沼海岸でのビーチクリーンを実施したり、企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み、校内に残る原生林である思索の森の保全を進めており、環境の保全・再生・創造に寄与し、地域循環共生圏(ローカルSDGs)を実現することを目指している。</p>		
過去に受けた表彰および受賞年度	横浜市道路局管理課ハマロード・サポーター永年表彰(平成29年)		

## 2 最近3年間の主な活動

※「1 応募者概要」の「環境に関する主な活動内容」について、最近3年間の主な活動内容を記入してください。

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
令和元年度	○ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動	150人	○ハマロード・サポーター制度を活用した通学路である海軍道路の清掃・植栽活動は、平成17年度より年1回続いている取組みである。令和元年度については部活動所属生徒約150名が参加し、海軍道路の清掃とともに約500ポットの花の植栽を行った。また、ハマロード・サポーター制度とは別途、海軍道路の清掃活動自体は、毎年3回程度行っている。なお、この海軍道路の清掃活動は、昭和55年11月より続く伝統でもある。
	○校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動	150人	○校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動も創立当初から続く取組である。思索の森は、海軍道路の側面のグラウンドと一段低く位置する校舎の間を横切っており、かぶとむし等の昆虫やヘビ、タヌキも住む豊かな森である。令和元年度については部活動所属生徒約150名が参加し、清掃活動や落ち葉で堆肥をつくるなどした。
令和2年度	○海軍道路の清掃活動(ハマロード・サポーター制度を活用した植栽活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした)	150人	○新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事が大きく制限された年であり、ハマロード・サポーター制度を活用した植栽活動は中止となったが、部活動所属生徒約150名が参加し、海軍道路の清掃活動は実施した。(令和2年度に植栽活動を行わなかったため、海軍道路は荒れ放題となっていた)
	○校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動	150人	○コロナ禍ではあったが、思索の森の保全・清掃活動にも部活動所属生徒約150名が参加した。再編統合による完校が決定し、学校の歴史を紐解いていく中で、グラウンドと思索の森よりも一段低い位置に校舎が建設されている背景や校内にこれほど豊かな自然林が残されている背景には、開校当時にまだ近隣に存在した米軍基地(上瀬谷通信施設)が関係しており、通信妨害を防ぐためであったことが分かった。
令和3年度	○鵜沼海岸でのビーチクリーンプロジェクト	300人	○神奈川県立瀬谷西高等学校43期生は、総合的な探究の時間において年間を通してSDGs(持続可能な開発目標)に関する探究学習に取り組んでいる。SDGsについて学習を進めていく中で、2018年に由比ヶ浜に打ち上げられたシロナガスクジラの胃の中からプラスチック片が見つかったことを知り、生徒有志から成る瀬谷西SDGsプロジェクトチームから海岸ごみ問題の実際について目で見たいという声があがった。そこで、生徒の発案を受け、6月18日(金)に2学年生徒約300名と職員で鵜沼海岸にてビーチクリーンを実施することとなった。実施にあたっては、公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携をおこなった。鵜沼海岸は一見とてもきれいな海岸であったが、よく見ると5mm程度の色とりどりのマイクロプラスチックが無

<p>○フラワーロードプロジェクト (ハマロード・サポーター制度 を活用した海軍道路への清掃・ 植栽活動の拡大実施)</p>	<p>300人</p>	<p>数に散らばっていることが分かった。飲料キャップや洗濯バサミのプラスチック片など、私たちの日常生活で出たプラスチックゴミが川を通じて海へと流れ出ていることが良く分かった。 <b>【資料1 ①】</b></p> <p>○海軍道路の清掃・植栽活動の拡大実施 海の環境保全に関わった次は、陸の環境保全にも関わりたいという声があがり、ハマロード・サポーター活動を活用した海軍道路の清掃・植栽活動を範囲と規模を拡大して実施した。11月4日(木)に瀬谷駅から国際園芸博覧会の会場付近に至る海軍道路1500mや商店街、瀬谷西高校、中屋敷地区センターなどに花を植栽し、ガーデンネックレス横浜や国際園芸博覧会の機運醸成につなげることにした。当日は、三ツ境養護分教室の生徒やPTA、FM横浜や横浜FC、株式会社オオスミ、株式会社サクラコーポレーション等の地域の企業と一緒に、約2200ポットの花を植栽し、瀬谷を花で彩るとともに、付近の清掃活動を行った。 <b>【資料1 ②】</b></p>
<p>○企業や行政とともに食品ロス、地産地消、資源循環、エシ</p>	<p>300人</p>	<p>○瀬谷駅前等に花壇を設置し、開催中止となった「里山ガーデン」の花を再利用 これに先立って、10月4日(月)には有志生徒が、2021年「秋の里山ガーデンフェスタ」(※)から花を提供いただき、櫻井造園土木株式会社やJA横浜の協力のもと、瀬谷駅北口プランターとJA横浜瀬谷支店前に花壇を設置し、地域の方々に花を楽しんでもらった。 ※「ガーデンネックレス横浜2021」における事業として開催予定だったが、神奈川県における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の延長に伴い中止となっていた。<b>【資料1 ③】</b></p> <p>○瀬谷区主催イベント「旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう！」に参加、種まきを実施 11月1日(月)にも有志生徒が、瀬谷区主催イベント「旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう！」に参加し、国際園芸博覧会の予定地である旧上瀬谷通信施設のはらっぱに上瀬谷小学校の児童と一緒に種まきを行った。生徒たちは小学生の種まきの指導にあたった。<b>【資料1 ④】</b> なお、これに先立って43期全体が旧上瀬谷通信施設のはらっぱを訪れ、広大な自然を肌で感じている。そして、国際園芸博覧会の終了後に整備される(仮称)旧上瀬谷通信施設公園に対して、議論を行い、提言書を瀬谷区へ提出した。</p> <p>○43期生約300名が、16のプロジェクトに分かれて、1年間の期間にわたり企業や行政、NPO等のメンターと協働して、SDGs</p>

<p>カル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み</p>		<p>の実現に向けて取り組む「グループ別プロジェクト」を進めている。プロジェクトが扱う課題は、食品ロス、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等などいずれも現実社会のものであり、そうした課題に対してメンター指導のもと生徒たち自身が解決策を構想し、実施に向けて準備を進めている。例えば、食品ロス削減プロジェクトでは、まだ食べられる未使用食品を集めフードバンクや地域の福祉施設等に寄贈するフードドライブを企画し、校内や地域で実施することを目指している。地産地消プロジェクトでは、瀬谷の農産物を使用した商品開発を行い、地元のカフェで提供することを目指している。小麦プロジェクトでは、上瀬谷で小麦農家を営む岩崎農園にて小麦栽培に取組み、商品開発することを目指している。海プロジェクトでは、海岸の国際認証制度であるブルーフラッグの啓発を目指したビーチクリーンの企画と実施を計画している。川プロジェクトでは、学校近くの大門川や境川の水質やマイクロプラスチック、生体調査の実施を計画している。【資料1 ⑤】</p>
<p>○校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動（絶滅危惧種Ⅱ種に指定されているキンランの発見と保全）</p>	<p>20人</p>	<p>○自然林である思索の森が校内に残る背景を知った生徒たちは、保全・清掃活動に取り組んで行く中で、絶滅危惧Ⅱ種に指定されているキンランが自生していることを発見した。キンランは、菌根菌と呼ばれる菌類と共に育つ植物であり、その菌がない別の環境で栽培したとしても、うまく生育しないという。キンランが自生しているのは、菌根菌が存在する昔からの環境がきちんと残されているためだと分かり、瀬谷西 SDGs プロジェクトの生徒たちは完校後もこの森を継承したいと考えている。【資料1 ⑥】</p>

### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
<p>学内の生徒等や教員、保護者との関わり</p>	<p>○鵜沼海岸でのビーチクリーンプロジェクト ○フラワーロードプロジェクト（ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動） ○企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み ○校内に残る原生林である思索の森の保全・清掃活動</p>	<p>○当初生徒の自己肯定感を高めることをねらいとして教員主導ではじまった SDGs をテーマとした探究学習であったが、学習を進めるうちに生徒が少しずつ環境の保全・再生・創造を自分事として捉えるようになり、有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が結成され、彼らの発案により学年生徒 300 名が参加する「ビーチクリーンプロジェクト」や「フラワーロードプロジェクト」等の学年行事を行うことを通じて多くの生徒の意識が変わり、生徒の想いに賛同する保護者や地域住民、企業も現れるようになってきている現状がある。企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組みでは、計 16 のプロジェクトに 300 名の生徒が分かれて所属し、企業や行政の協力のもと、自発的に取組をすすめている。</p>

<p>自治会・町内会との関わり</p>	<p>○フラワーロードプロジェクト（ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動）</p>	<p>○海軍道路沿いにある「区連合町内会自治会連絡協議会」、「瀬谷第一地区連合町内会」、「本郷地区連合自治会」、「瀬谷北部町内連合会」にご賛同いただくとともに、当日は「瀬谷第一地区連合町内会」から約 10 名程度のご参加を賜った。生徒からは、次年度の実施にあたっては、地域からも「より一層の学校と地域の協働を進め、2027 年の国際園芸博覧会の実施まで引き継がれる取組みとしたい」という声があがっている。</p>
<p>学外団体との関わり</p>		
<p>企業等との関わり</p>	<p>○鶴沼海岸でのビーチクリーンプロジェクト</p> <p>○フラワーロードプロジェクト（ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動）</p> <p>○企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み</p>	<p>○ビーチクリーンの実施にあたっては、公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携をおこなった。</p> <p>○櫻井造園土木株式会社や JA 横浜の協力のもと、瀬谷駅北口プランターと JA 横浜瀬谷支店前に花壇を設置した。また、花で瀬谷を盛り上げるため、生徒たちが地域商店街の店舗に花のお裾わけを行った。当日の植栽や清掃には、JA 横浜や FM 横浜、横浜 FC、株式会社オオスミ、株式会社サクラコーポレーション三ツ境商店街会等の地域の企業が参加してくれた。</p> <p>○みどりプロジェクト グリーンインフラについて学んだ生徒たちが、国土交通省や株式会社サクラコーポレーションと連携して、レイズドベッドの制作に向けて取り組んでいる。</p> <p>○川プロジェクト 川が環境に果たす役割を学んだ生徒たちが、株式会社オオスミと連携して、学校近隣の境川や大門川の水質やマイクロプラスチック、生物等の調査研究に取り組んでいる。</p> <p>○海プロジェクト 海岸ごみの実態について学んだ生徒たちが、NPO 法人湘南ビジョン研究所と連携して、ブルーフラッグの啓発につながるビーチクリーンの実施に向けて取り組んでいる。</p> <p>○地産地消プロジェクト 地産地消について学んだ生徒たちが、たまごカフェごとと連携して、瀬谷の名産を使用した商品開発に向けて取り組んでいる。</p> <p>○小麦プロジェクト 地産地消について学んだ生徒たちが、株式会社横浜ビールや岩崎農園と連携して、農園にて小麦を実際に栽培し、栽培した小麦を使用した商品開発に向けて取り組んでいる。</p> <p>○食品ロス削減プロジェクト 食品ロスの現状について学んだ生徒たちが、株式会社良品計画、フードバンクかながわ、横浜市資源循環局 3R 推進課と連携して、校内や地域におけるフードドライブの実施に向けて取り組んでいる。</p>

		<p>○資源循環プロジェクト  サーキュラーエコノミーについて学んだ生徒たちが、株式会社良品計画、サーキュラー横浜、横浜市資源循環局 3R 推進課と連携して、洋服等の資源循環の仕組み作りに向けて取り組んでいる。</p> <p>○エシカル消費プロジェクト  エシカル消費について学んだ生徒たちが、株式会社フラッグと連携して、海洋ゴミを回収するシービン設置に向けて取り組んでいる。</p> <p>○フェアトレードプロジェクト  フェアトレードについて学んだ生徒たちが、株式会社チョコレートデザインと連携して、フェアトレードの啓発と途上国支援に取り組んでいる。</p> <p>上記のプロジェクト以外にも計 16 のプロジェクトがあり、それぞれ横浜 FC、FM 横浜、Life Reversal Gaming.、神奈川県動物愛護センター、株式会社いであ、JA 横浜、M. SLASH 等と協働して、生徒たちが SDGs の実現を目指して自発的に取り組んでいる。</p>
行政との関わり	○フラワーロードプロジェクト（ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動）	<p>○横浜市環境創造局みどりアップ推進課と連携  神奈川県における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の延長に伴い開催中止となった 2021 年「秋の里山ガーデンフェスタ」からお花を提供いただき、瀬谷駅北口プランターと JA 横浜瀬谷支店前に花壇を設置した取組については、横浜市環境創造局みどりアップ推進課と連携し、「ガーデンネックレス横浜 2021」における連携事業の一環とした。</p> <p>○瀬谷区役所・瀬谷土木事務所と連携  「旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう！」にて、旧上瀬谷通信施設のはらっぱ内に上瀬谷小学校の児童と一緒に種まきを行った取組については、瀬谷区役所と連携した。ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動であるフラワーロードプロジェクトについては、瀬谷土木事務所と連携を行った。</p>
その他、環境以外の分野との関わり	○鵜沼海岸でのビーチクリーンプロジェクト ○フラワーロードプロジェクト（ハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路への清掃・植栽活動） ○企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会	<p>○有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」は、自分たちの環境の保全・再生・創造に係る活動を地域に伝え、レガシーとして継承するとともに、花や緑による瀬谷の街の魅力向上や人々の花や緑への関心を高め、ガーデンネックレス横浜や国際園芸博覧会の気運醸成の一助とするために、様々な機会を捉えて広報活動に取り組んでいる。例えば、中屋敷地区センターの文化祭や瀬谷駅北口イルミネーション点灯イベントの機会を捉えて報告を行っている。【資料 1 ⑦】</p> <p>今後は、学びの成果をレガシーとして地域に継承したいとして、地域の方々や瀬谷区役所や横浜市役所をはじめとする行政官、横</p>

	課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み ○校内に残る原生林である思索の森の保全・清掃活動	浜市議会議員や神奈川県議会議員等とも直接お会いし対話する中で、自分たちの取組をより深化させたいと考えている。
--	---	--

#### 4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

##### ●海軍道路の清掃・植栽を行うようになった経緯

神奈川県立瀬谷西高等学校は、昭和 53 年 4 月に開校し、今年で創立 44 年を迎える。地域住民から瀬谷区にもう一校の高校を望む誘致活動が起こったことに端を発していることもあり、創立当初より地域との関係が深い学校であった。こうした経緯から、通学路である海軍道路の清掃活動は、昭和 55 年の 11 月より開始し、その伝統を脈々と受け継いで毎年実施してきた。【資料 2 ①】ハマロード・サポーターの制度開始後には、瀬谷区では最も早い平成 17 年度に登録を行い、以降はハマロード・サポーター制度を活用して海軍道路の清掃・植栽を現在に至るまで行ってきた。【資料 2 ②】なお、平成 29 年には、横浜市道路局管理課より「永年表彰団体」として表彰を受け、当時の副市長より感謝状が贈呈されている。コロナ禍におかれた令和 2 年度においても、ハマロード・サポーター制度を活用した植栽活動は中止としたものの、海軍道路の清掃活動自体は実施した。

##### ●「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」の発足経緯

再編統合による完校を迎えるに伴い最終学年となる神奈川県立瀬谷西高等学校 43 期生は、総合的な探究の時間において SDGs（持続可能な開発目標）に関する探究学習に取り組んでいる。これは、持続可能な開発目標（SDGs）に関わる横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、生徒の自己肯定感を高めることを目指しているためである。また、学びの成果を瀬谷西のレガシーとして地域に継承することで、地域への恩返しをしたいと考えたためである。【資料 青リーフレット】令和 3 年度の 1 学期に、神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室 SDGs 推進グループの御担当者様や NHK エンタープライズのエクゼクティブプロデューサーである堅達京子様などから地球環境の現状や環境の保全・再生・創造の重要性を学んだ。こうした教員主導ではじまった取組みであったが、自発的に生徒有志約 20 名が環境の保全・再生・創造に関わりたいとして集結し、「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が結成されることとなった。

#### 5 今までの活動

##### 活動の目標・ねらいに対する成果

##### ●活動の目標

持続可能な開発目標（SDGs）に関わる横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、生徒の自己肯定感を高めることを目指している。

##### ●ねらいに対する効果

自発的に結成された「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」の発案により、海岸ごみ問題の実際について目で見えるために「ビーチクリーン」を学年行事として決行することとなった。約 300 名が在籍する 43 期生の中には、当初乗り気ではない生徒も少なからずいたが、実際にビーチクリーンを行い、そのマイクロプラスチックの多さを目にすることで意識が変わることとなった。

そして、海岸ごみの多くが、私たちが暮らす街から川を通じて流出することを知った生徒たちは、陸

の環境保全にも関わりたいと考えるようになった。生徒たちは、学校の近隣で「2027 国際園芸博覧会」が開催されることを知り、地域を花で盛り上げたいと考え、「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が「ガーデンネックレス横浜 2021」における連携事業の一環として、10月26日（火）に神奈川県における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の延長に伴い開催中止となった2021年「秋の里山ガーデンフェスタ」からお花を提供いただき、櫻井造園土木株式会社や JA 横浜の協力のもと、瀬谷駅北口プラランターと JA 横浜瀬谷支店前に花壇を設置した。また、11月1日（月）にも有志生徒が、瀬谷区主催イベント「旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう！」に参加し、旧上瀬谷通信施設のはらっぱに上瀬谷小学校の児童と一緒に種まきを行った。こうした取組みを経て、学年行事として従来取り組んできたハマロード・サポーター活動を活用した海軍道路の清掃・植栽活動の範囲や規模を拡大し、11月4日（木）に瀬谷駅から園芸博会場付近まで海軍道路約1500メートルや瀬谷西高校、商店街、中屋敷地区センターなどに花を植栽し、ガーデンネックレス横浜や国際園芸博覧会の気運醸成につなげる「フラワーロードプロジェクト」を執行することとした。生徒の想いに賛同し、当日は、三ツ境養護分教室の生徒やPTA、FM横浜や横浜FC、株式会社オオスミ、株式会社サクラコーポレーション等の地域の企業が参加し、約2200ポットの花を植栽し、瀬谷を花で彩るとともに、付近の清掃活動を行い、地域貢献をすることができた。こうした取組みに対して、地域からの感謝をいただくことが増え、「瀬谷西高校だから出来た」という生徒の自己肯定感が少しずつ高まってきている現状がある。実際に、生徒からは「もっとSDGsの取組を進めたい」や「来年度のフラワーロードプロジェクトはより拡大して地域や他の学校と一緒に取り組みたい」というような声が出ている。【資料2 ③・MAP】【資料 赤リーフレット】

さらに、企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組みでは、計16のプロジェクトに300名の生徒が分かれて所属し、企業や行政の協力のもと、生徒たちが考える解決策の実施に向けて準備をすすめている現状にある。例えば、海プロジェクトでは、海岸ごみの実態について学んだ生徒たちが、NPO法人湘南ビジョン研究所と一緒に、海岸の国際認証制度であるブルーフラッグの啓発を目指したビーチクリーンの企画を進めている。また、食品ロス削減プロジェクトでは、食品ロスの実態について学んだ生徒たちが、株式会社良品計画やフードバンクかながわ、横浜市資源循環局3R推進課と一緒に、校内や地域でのフードドライブの企画を進めている。いずれも令和4年春頃の実施を目指している。

このように、当初生徒の自己肯定感を高めることをねらいとして教員主導ではじまったSDGsをテーマとした探究学習であったが、学習を進めるうちに生徒が少しずつ環境の保全・再生・創造を自分事として捉えるようになり、有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が結成され、彼らの発案により学年生徒300名が参加する学年行事を行なうことを通じて多くの生徒の意識が変わり、生徒の想いに賛同する保護者や地域住民、企業が現れるようになっていく。そして、結果的に、企業や行政、NPO、地域の自治会・町内会・商店街等の地域のネットワークの結節点として位置付くことで、環境の保全・再生・創造やSDGsの実現に向けたコミュニティが創出されている。

#### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

生徒たちは、校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動に取り組んで行く中で、絶滅危惧Ⅱ種に指定されているキンランが自生していることを発見した。キンランは、菌根菌と呼ばれる菌類と共に育つ植物であり、その菌がない別の環境で栽培したとしても、うまく生育しないという。キンランが自生しているのは、菌根菌が存在する昔からの環境がきちんと残されているためだと分かり、生徒有志からなる「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」の生徒たちは完校後もこの森を継承したいと考えている。



## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

神奈川県立瀬谷西高等学校は、再編統合のため、令和5年3月31日に完校する。最終学年である43期生は、総合的な探究の時間（SEYANISHI SDGs Project）に取り組み、学びの成果を瀬谷西のレガシーとして地域に継承し、地域への恩返しをしたいと考えている。

これまでの取組を踏まえて、生徒からは「もっと地域を花で盛り上げたい」や「フラワーロードプロジェクトを地域と一緒に取り組みたい」といった声があがっていることから、最終年度となる令和4年度は、「フラワーロードプロジェクト」を地域との協働をより一層図りつつ取組むことで、地域にフラワーロードを継承することを目指している。また、「2027 国際園芸博覧会」が本校の近隣に位置する旧上瀬谷通信施設で開催され、本校の取組ともSDGsの実現という点で軌を一にしていることから、瀬谷西高校生が考える国際園芸博覧会として「瀬谷西園芸博覧会」を開催することを計画している。この「瀬谷西園芸博覧会」は、「フラワーロードプロジェクト」の成果やビーチクリーンをはじめとするSDGsに関する取組の成果、企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組みの成果等について、地域の方々へ報告するとともに、体験的に学べる機会や場づくりを行い、環境の保全・再生・創造の重要性について訴求していくことを予定している。この「瀬谷西園芸博覧会」の取組みが、環境の保全・再生・創造に対する地域の機運を醸成し、レガシーとして「2027 国際園芸博覧会」に引き継がれることを目指したい。

また、瀬谷西高校は、近隣の瀬谷高校と再編統合することになるため、本校生徒からは、こうした取組について「瀬谷高校の生徒とも一緒に取り組みたい」という声があがっている。令和4年度は瀬谷高校とも連携しながら取組を進めることで、環境の保全・再生・創造に係る一連の取組を、レガシーとして再編統合後の新校へと引き継ぐことを目指したい。

こうした継承を可能とするためにも、有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」は、自分たちの環境の保全・再生・創造に係る活動を地域に伝え、レガシーとして継承するとともに、花や緑による瀬谷の街の魅力向上や人々の花や緑への関心を高め、ガーデンネックレス横浜や国際園芸博覧会の気運醸成の一助とするために、様々な機会を捉えて広報活動に取り組んでいる。例えば、中屋敷地区センターの文化祭や瀬谷駅北口イルミネーション点灯イベントの機会を捉えて報告を行っている。今後は、学びの成果をレガシーとして地域に継承したいとして、地域の方々や瀬谷区役所や横浜市役所をはじめとする行政官、横浜市議会議員や神奈川県議会議員等とも直接お話し対話する中で、自分たちの取組を洗練させたいと考えている。

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

### ●最も注目してもらいたい・評価してもらいたい取組

まず、その継続性と発展性にある。通学路である海軍道路の清掃・植栽活動は、40年前の3期生からはじまり、完校にいたるまで連綿と受け継がれてきた取組である。平成17年度からはハマロード・サポーター制度も活用し、その取組を充実させ、平成29年には横浜市道路局管理課より「永年表彰団体」として表彰も受けることができた。そして、令和3年度には、学校の近隣で「2027 国際園芸博覧会」が開催されることを知り地域を花で盛り上げたいと考えた43期生の有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が、その範囲と規模を拡大させて「フラワーロードプロジェクト」を立案し、学年全体300名の生徒や地域を巻き込み実施をした。さらに、令和4年度では、これまでの取組をさらに発展させ、「瀬谷西園芸博覧会」の開催を予定している。

さらに、最終学年である43期生の生徒には、自発性が生じ、自己肯定感が高まっていることにあ

る。既に述べた通り、当初生徒の自己肯定感を高めることをねらいとして教員主導ではじまった SDGs をテーマとした探究学習であったが、学習を進めるうちに生徒が少しずつ環境の保全・再生・創造を自分事として捉えるようになり、有志生徒から成る「瀬谷西 SDGs プロジェクトチーム」が結成され、彼らの発案により学年生徒 300 名が参加する「ビーチクリーンプロジェクト」や「フラワーロードプロジェクト」といった学年行事を行なうことを通じて多くの生徒の意識が変わり、生徒の想いに賛同する保護者や地域住民、企業も現れるようになってきている。また、あわせて、企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間でも、16 のプロジェクトごとに生徒自身がフードドライブやビーチクリーン、地産の農産物を使用した商品開発等の課題解決につながる企画を立案し、令和4年の春以降に実施することを目指している。

これまで「どうせ瀬谷西高校だから…」と語る自己肯定感の低い生徒が多かったが、こうした取組を経て「瀬谷西高校だから出来た！」と語る生徒が出てきたことから、自発性や自己肯定感の高まりを見て取れる。今回、瀬谷西高校としての集大成を示すことのできる次年度の第30回横浜環境活動賞ではなく、完校まで1年を残したいいわば中途半端なタイミングでこの第29回横浜環境活動賞へ応募することは、こうした取組の発展性や生徒の自発性や自己肯定感の更なる高まりに向けた起爆剤となることを期待しているためである。

#### ●他の団体と異なる自分たちの強み・独自性

上述の生徒の自発性や自己肯定感の高まりに関係して、一部の生徒に限定された取組ではなく、43期生全体の約300名が関わる取組となっていることが強みであるとともに、そうした想いに共感して連携してくださる学校外の団体の多さも強みである。一連の取組に、数多くの企業や行政、NPO、地域の自治会・町内会・商店街が協働してくれている。SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」が示す通り、環境の保全・再生・創造については多様な関係諸機関との連携・協働が欠かすことができない。本校の取組は、環境の保全・再生・創造やSDGsの実現に向けた地域の結節点として、高等学校が位置付く可能性を示している。

さらに、地域の資源である「2027 国際園芸博覧会」に生徒が目をつけ、「フラワーロードプロジェクト」や「瀬谷西園芸博覧会」等の教育的価値に変換しているため、瀬谷西高校を結節点として地域に生まれた企業や行政、NPO、地域の自治会・町内会・商店街等のネットワークは、「2027 国際園芸博覧会」に向けた地域の気運醸成にもいかされると考えられる。結果として、環境の保全・再生・創造やSDGsの実現に向けたコミュニティを創出することができたことは本校の独自性と考えられる。

#### ●おわりに

43期生の生徒たちの自発的な取組の背景には、やはり神奈川県立瀬谷西高等学校が再編統合のため令和5（2023）年3月31日に完校し、学校が無くなってしまふことが大きい。43期生を最後に入学生の募集を停止しているため、令和4年度には一学年しかおらず、いわば学校のアンカーでもある。これまでの卒業生が連綿と取り組んできた海軍道路の清掃・植栽活動や思索の森の保全・清掃活動などの取組を、SDGsの観点から「フラワーロードプロジェクト」や「瀬谷西園芸博覧会」のように再定義を行った上で、瀬谷西のレガシーとして地域に継承していくことを目指している。

瀬谷西高校はなくなってしまうが、瀬谷西高校の環境保全・再生・創造に係る取組のレガシーを地域に継承し、2027年に控える「2027 国際園芸博覧会」につなげるという生徒たちの想いを、今回の第29回横浜環境活動賞への応募で後押しすることができれば幸いである。

《最近3年間の主な活動》

① 鶴沼海岸でのビーチクリーンプロジェクト



↑ 鶴沼海岸でのビーチクリーンの様子



↑ 拾ったマイクロプラスチック

② フラワーロードプロジェクト（海軍道路への清掃・植栽活動の拡大実施）



↑ フラワーロードプロジェクト実施前の海軍道路  
（令和2年度はコロナ禍で植栽は中止のため荒れている）  
←実施前にはゴミも捨てられていた



↑ 海軍道路の植栽マスに花を植栽する様子



↑ 地域の企業（写真は横浜FC）とも協働



↑ 商店街にもお花のお裾分けを行った →



← 完成したフラワーロード（瀬谷駅から国際園芸博覧会会場に至る海軍道路1500mに花が点在している。地域の方々から感謝の声掛けも多くいただいている。花がら摘みも生徒が行なう。）

### ③ コロナ禍で開催中止となった「里山ガーデン」のお花を再利用



↑ 植栽前の JA 横浜瀬谷支店前

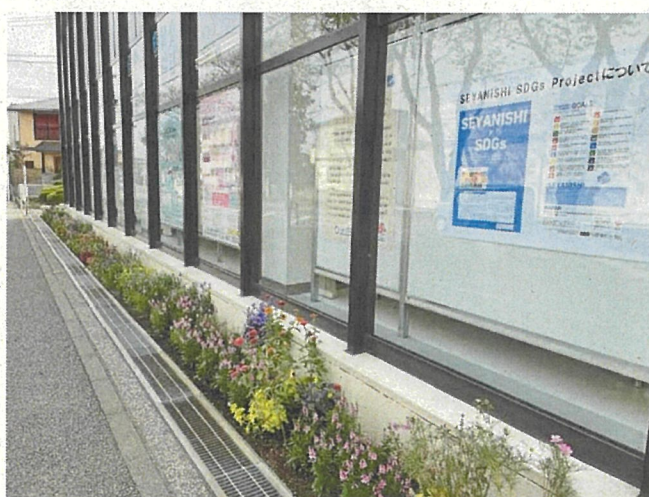
← 植栽前の瀬谷駅北口（プランターもまだない）



↑瀬谷駅北口に設置したプランターへの植栽



↑植栽後の瀬谷駅北口



↑植栽後の JA 横浜瀬谷支店前

←JA 横浜瀬谷支店前への植栽（ミニ里山ガーデンの完成）

④ 瀬谷区主催イベント「旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう！」への参加



↑生徒1人が3人の小学生の指導にあたった

←一面倒見よく指導にあたり、小学生から感謝状もいただく

⑤ 企業や行政とともに食品ロス削減、地産地消、資源循環、エシカル消費、海や川、陸の環境保全等の社会課題解決にあたる総合的な探究の時間の取組み



↑ JA 横浜「ハマっ子」直売所にて横浜野菜を通して地産地消について学ぶ「農業プロジェクト」



↑ 岩崎農園にて小麦の種まきを行なう「小麦プロジェクト」

⑥ 校内に残る自然林である思索の森の保全・清掃活動



↑ 校内に残る自然林である思索の森



↑ 絶滅危惧種Ⅱ類のキンランを発見

⑦ 環境の保全・再生・創造に係る活動を地域に伝えレガシーを継承するための報告



↑ 瀬谷駅北口イルミネーション点灯式での PR



↑ 中屋敷地区センターでのポスター報告

## 《神奈川県立瀬谷西高等学校の海軍道路の清掃・植栽活動の歴史》

55. 4. 7	第3回入学式 450名(男子216名 女子234名)入学	
4. 9	T.V.K本校紹介の録画取り(27日放映)	
4. 30	遠足(学年別 以後定例)	
6. 21	第2回生徒会役員選挙	
7. 14	校内全校球技大会(以後57年度まで定例、58年度以降～16は学年別球技大会となる)	
7. 17	第1回檜首予防講演会及び映画上映(以後定例)	
7. 18	第2回演劇鑑賞会“ブンナよ 木が降りてこい”	
9. 上旬	ウラス別図書オリエンテーション 図書館全面開放	
10. 1	第1回陸上競技大会(於 藤沢競技場) 就職試験始まる	
10. 7	第2期生修学旅行(山陰・山陽方面)～11	
10. 8	遠足(1年生のみ、3年生授業 以後1年秋季遠足定例)	
10. 25	光臨に倉敷野 広氏作「裡婚嫁」が設置される	
11. 1	第1回檜祭 テーマ“伸びよ橋、新しい空に”	
～2	それに伴ない海軍道路清掃始まる(以後、1学期1年2学期2年、3学期3年の分担で定着)	
11. 25	成人教育委員会講演会 お茶の水女子大教授外山益比古氏“家庭という学校”	
12. 24	2学期終業式で校歌発表	
56. 1. 13	第1回校内NewYear コンサート(於 本校音楽室)	
2. 3	南棟完成 中庭造園着工	
2. 7	第1回駅伝大会	
2. 26	入学選抜学力検査	
3. 2	第1回卒業式 258名(男子145名 女子113名)卒業	
3. 6	合格発表	

### ① 昭和55年、海軍道路の清掃活動の開始(十周年(1978-1988)記念誌より)

←本校の十周年(1978-1988)記念誌を紐解くと、昭和55年11月に第1回檜祭(文化祭)が開催され、それに伴い海軍道路清掃が始まったとされ、以後、1学期1年、2学期2年、3学期3年の分担で定着したと書かれている。これ以降、海軍道路の清掃活動は、伝統として連綿と受け継がれてきた。

### ② 平成26年、海軍道路の清掃・植栽活動の様子(広報よこはま瀬谷区版より)

瀬谷区版 / 広報よこはま 平成26(2014)年2月号 5

ここから瀬谷区版です。(5ページ～12ページ)

広報よこはま瀬谷区版 2月号 No.196

### 地域のきずな

私たちのまわりには、さまざまな分野で地域のために活躍している人がいます。少しでも多くの方がその活動を知り、協力すること…これが地域のきずなを深める第一歩です。

#### 第13回 ハマロードサポーター(県立瀬谷西高校の皆さん)

通勤・通学で普段何気なく歩いている道。枯葉や枝、ペットボトルやたばこの吸い殻などさまざまなものが落ちています。そして、そのようなごみを拾っていただいているボランティア団体があります。主に自分の生活する身近な場所を活動範囲として、道路のごみ拾いや花苗の植栽などを行っているのは「ハマロードサポーター」の皆さん。今回は瀬谷区のハマロードサポーターの一員である、県立瀬谷西高校の生徒の皆さんを取材しました。

瀬谷西高校では、学校の前を通る海軍道路(環状4号線)等を活動場所として、草取りやごみ拾い、街路樹の周りに花苗を植える活動をしています。

この日は、生徒会・サッカー部・バレーボール部・吹奏楽部等の生徒の皆さんが海軍道路沿いのごみを拾い、植栽前に花苗を植えていました。

「自分たちの通学路がきれいになるのはうれしい。お菓子の袋やアイスクリームの袋がよく落ちていたけれど、拾う立場の人を考えると絶対捨てない。」と話すのは1年生サッカー部の横田さん。また、2年生サッカー部の西澤さんは「仲間と一緒に取り組むのは楽しいが、何より地域のためになっていると思うとうれしい。」と話していました。実際に近所に住む男性が生徒の皆さんに声を掛け、植栽方法をサポートしていました。この男性も「これまで何度も大きな病気をしており、このように生徒の皆さんと交流できるのが励みになる。」とお話ししてくださいました。最後に吹奏楽部の1年生、植松さんと小川さんは「心をこめて植えた花を踏まないで」。このような活動を見かけましたら、ぜひ励ましの声を掛け、また一緒に取り組んでみてください。

●問合せ  
瀬谷土木事務所 ☎364-1105 ☎391-6974

↑平成26年の広報よこはま瀬谷区版でハマロード・サポーター制度を活用した海軍道路の清掃・植栽活動が紹介された。平成29年に横浜市道路局管理課より「永年表彰団体」の表彰を受けた。

③ 令和3年、フラワーロードプロジェクトの様子（タウンニュース瀬谷区版 2021年（令和3年）11月11日（木）号より）

瀬谷西校  
高

# 海軍道路を花で彩る

## 国際園芸博の機運醸成へ



海軍道路沿いに花を植える生徒たち

2023年度に瀬谷高校と再編・統合される瀬谷西高校（小林幸宏校長）の2年生が地元企業などと連携して11月4日、海軍道路沿いなどに約2200本の花を植えた。植栽を通じて、区民の花や緑に対する関心を高めるとともに、学校からほど近い旧上瀬谷通信施設で2027年に開催予定の国際園芸博覧会への機運を高めたい考えだ。

### “完校”に向けて地域貢献

「フラワーロードプロジェクト」と銘打たれた取り組み。最終学年の2年生（43期生）およそ300人に加えて、校内に分教室がある三ツ境養護学校の生徒、PTA、横浜F.C.、JA横浜、商店街、自治会など多方面の協力を得ながら実施。海軍道路の瀬谷中学校交差点付近から跡地の手前あたりまで約1・3kmの道路沿いや、中屋敷地区ゼンター近くなどにパンジーやビオラを植えた。これに先駆けて、10月

上旬には有志が瀬谷駅北口に里山ガーデンから譲り受けた植物で花壇を作り、今月1日には跡地に花畑を作る瀬谷区役所の事業にも参画して種まきを行った。また、生徒は瀬谷駅南口の商店街も訪問し、プロジェクトへの協力を呼びかけていた。

「一連の取り組みの中心メンバーという青木日和さん（2年）はフラワーロードプロジェクトについて、「まだ知らない人も多いSDGsを身近に感じてもらえる良い機会だと思います」とコメント。また、「瀬谷西が取り組んだのだから自分たちもできる」と、周辺の小中学校や高校の人たちが考えてくれたら嬉しいです」とSDGsの広がりを目指す。

同校では23年3月31日の“完校”に向けて今年度から、SDGs（持続可能な開発目標）に関する学習を2年生を中心に進めており、学びの成果を“瀬谷西のレガシー”として地域に継承していくことを目指している。フラワーロードプロジェクトもこの一環で、6月に鶴沼海岸で行ったビーチクリーンと並び、学年全員による全体事業と位置付けられている。加えて、生徒たちは福祉や食品ロス、動物愛護、資源循環などテーマごとのグ

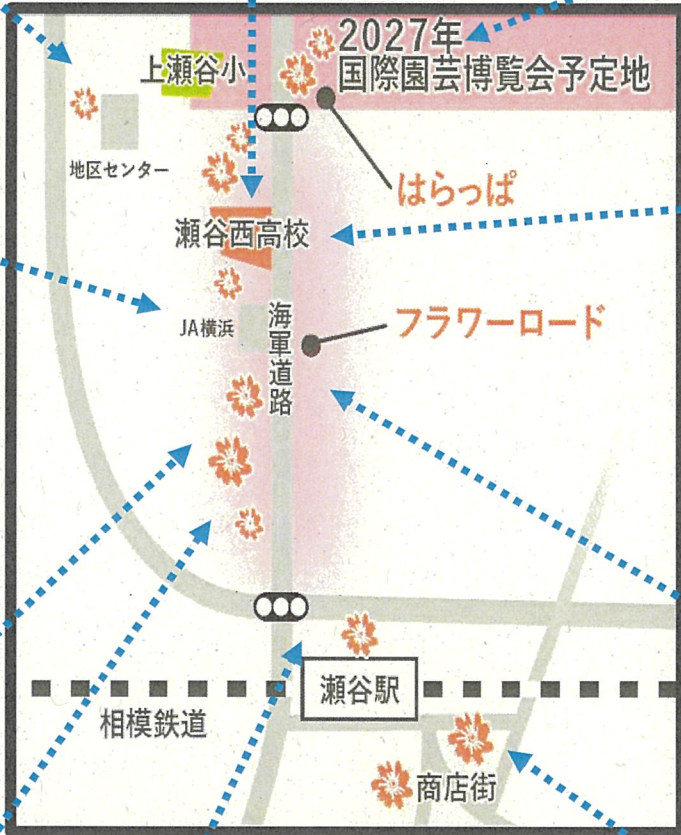
同じく中心メンバーの島村美宝利さん（同）は園芸博について「上瀬谷が色々な花で鮮やかになるのが楽しみ。大人になつてから戻ってくる良い機会ですね」と笑顔。また、「瀬谷区の人たちに『瀬谷西って良い高校だったね』と思ってもらえるよう頑張ります」と更なる活動に意欲を見せていた。

↑海軍道路の清掃・植栽活動は、令和3年SDGsの視点から再定義され、その規模や範囲を拡大し「フラワーロードプロジェクト」として、国際園芸博覧会に向けて地域と協働して実施された。



《瀬谷西フラワーロードプロジェクト MAP》

瀬谷西高校・SDGs  
 瀬谷に花を咲かせよう!  
 園芸博につなげよう!



# SEYANISHI × SDGs

神奈川県立瀬谷西高等学校は、再編統合のため、2023年3月31日に完校します。最終学年である43期生は、総合的な探究の時間（SEYANISHI SDGs Project）に取り組み、学びの成果を、瀬谷西のレガシーとして地域に継承します。



持続可能な開発目標（SDGs エス・ディー・ジーズ）とは、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための開発目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

## 校長 小林 幸宏

生徒の皆さんは、9年後の2030年に自分がどのような生活をしていると思いますか。想像してみてください。バリバリ働いている人、結婚して子供がいる人もいるかもしれませんね。その2030年までに貧困、海洋汚染、気候変動、資源の枯渇などの課題を解決しようという試みが、SDGsです。

2018年スウェーデンの15歳の少女グレター・トゥーンベリさんは、たった一人で、毎週議会の前に座り込み、「気候のための学校ストライキ」というプラカードを掲げました。この運動は世界中に拡散して、2019年には180万人を超えました。「私たちは、大量絶滅の始まりにいます。あなた方は私たちを裏切っています。しかし若者たちはあなた方の裏切りに気づき始めています。未来の世代の目は、あなた方に向けられています。」と世界の指導者に二酸化炭素の排出量削減について訴えた国連でのスピーチは衝撃的でした。皆さんは、グレタさんと同世代です。「他人事」ではなく、まさに「自分事」なのです。

今まで「自分の頭で考え、自分の考えを、自分の言葉で話す力」を身につけてほしいと話してきました。今後「社会参画する資質能力」を高め、「持続可能な社会の創り手」に成長して欲しいと願っています。「自分事」として社会課題に取り組み、自信を持ち卒業できるよう、SEYANISHI SDGs Projectを始動します。



私たち一人ひとりの行動が、  
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

	「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせよう」		「国内及び国家間の不平等を見直そう」
	「飢餓を終わらせ、全ての人々が一年を通して栄養のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう」		「安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう」
	「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進しよう」		「持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう」
	「全ての人々が受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう」		「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう」
	「男女平等を達成し、全ての女性及び女児の能力の可能性を伸ばそう」		「持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう」
	「全ての人々が安全な水とトイレを利用できるようにし、衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう」		「陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう」
	「全ての人々が、安く安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう」		「持続可能な開発のための平和的で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人々が法や制度で守られる社会を構築しよう」
	「誰も取り残さないで持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が生産的で働きがいのある人間らしい仕事に就くことができるようにしよう」		「目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発に向けて世界のみならず協力しよう」
	「災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう」		

## SEYANISHI

瀬谷西高校は、県立高校改革指定事業において教育課程研究開発校（新科目「公共」）の指定を受けています。新科目「公共」は、2022年度より実施される新学習指導要領における公民科の新しい共通必修科目です。そのねらいは、選挙権年齢や成年年齢が18歳へと引き下げられる中で、自立した主体として社会に参画するために必要な資質・能力を育成することにあります。瀬谷西高校では、学校の理念として「キャリア・シチズンシップ教育」を掲げ、総合的な探究の時間（SEYANISHI SDGs Project）を中核として学校のすべての教育活動を通じて、自立した主体として社会に参画するために必要な資質・能力を育成することを目指しています。

### ご協力をお願い

瀬谷西高校は、最終学年である43期生の総合的な探究の時間（SEYANISHI SDGs Project）について、ご協力いただける方々を募集しています。

〈お問い合わせ先〉

神奈川県立瀬谷西高等学校 43期学年リーダー 黒崎  
 TEL 045(302)3535 FAX 045(304)2909  
 URL <http://www.seyanishi-h.pen-kanagawa.ed.jp>

瀬谷西高校は、2027年に旧上瀬谷通信施設で開催予定の「2027国際園芸博覧会」を応援しています。



瀬谷西高校 × SDGs

# 瀬谷に花を咲かせよう! 園芸博につなげよう!

瀬谷西高校2学年(43期)の生徒が、瀬谷を花で盛り上げるため、海軍道路をはじめとした瀬谷の各所に花を植栽します。地域の皆さまにお花を楽しんでいただくとともに、「2027年 国際園芸博覧会」の機運醸成の一助になれば幸いです。



2021 瀬谷区役所主催  
11/1 旧上瀬谷通信施設のはらっぱに花畑を作ろう!

瀬谷西高校の生徒と上瀬谷小学校の児童が、旧上瀬谷通信施設のはらっぱ内に種まきを行います。広大なはらっぱに出現する花畑は、2022年春のはらっぱ一般開放にて公開予定です。

2021 瀬谷西高校主催  
11/4 フラワーロードプロジェクト

瀬谷西高校2学年(43期)の生徒約300名が、ハマロードサポーター活動の一環として、三ツ境養護分教室の生徒やPTA、地域の企業と一緒に、海軍道路や商店街、瀬谷西高校、中屋敷地区センターなどに花を植栽します。



MAP

@Photo by MAKI KAWAI

「ガーデンネックレス横浜 2021」における連携事業の一環として、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の延長に伴い開催中止となった2021年「秋の里山ガーデンフェスタ」からお花をご提供いただき、瀬谷駅北口とJA横浜瀬谷支店前に植栽しました。

神奈川県立瀬谷西高等学校は、再編統合のため、2023年3月31日に完校します。最終学年である43期生は、総合的な探究の時間(SEYANISHI SDGs Project)に取り組み、学びの成果を瀬谷西のレガシーとして地域に継承します。

瀬谷西高校は「ガーデンネックレス横浜」「2027年 国際園芸博覧会」を応援しています。

